

電波タイムズ

The Dempa Times

2020年(令和2年) 第7093号

3月11日 水曜日

月水金曜日発行
(祝日休刊)

発行所 株式会社 電波タイムズ社

〒105-0004 東京都港区新橋5丁目20番1号 電話 03(5473)5050 FAX (5473)6051
大阪支社 http://www.dempa-times.co.jp

東日本大震災から9年「改めてラジオを見直す」

特集 防災ラジオ

2011年3月11日に発生した東日本大震災。その後も、地震・台風等の自然災害は留まることがなく、日本列島は毎年のように各地で甚大な被害を負っている。災害による被害を最小限にとどめ、適切な避難行動をとるためには、国や自治体から発信される情報を迅速かつ、的確に得ることが最も重要だ。その際、有用なツールの一つとなるのが「ラジオ」。ここでは、コミュニティFM放送やCATVと連携し、緊急時に自動起動する防災ラジオや、充電機能を内蔵することで乾電池切れを心配なくいいタイプなど、防災と減災に役立つ、様々なラジオ受信機を紹介する。

独自の特許技術で雷発生時も誤作動せず

安全設計の防災ハイブリッドラジオ

タイヨー電子

福井県鯖江市に本社を置くタイヨー電子は、自治体向け「防災ハイブリッドラジオ」の開発・製造に向け、JFN、佐賀市、エフエム佐賀、および鯖江市のNPO法人「たんなん夢レディオ」の4社がプロジェクトチームを組み、雷・外来



ノイズなどの影響を受けないデータ受信方式を考案、特許を受けたその技術を採用している。防災ハイブリッドラジオ最大の特長は「誤作動を極限まで防ぐ安全設計」。従来の防災ラジオは、落雷の影響や通常のFM放送における楽曲の一部を起動信号と勘違いし「誤作動」を起こす場合があった。人の命を要する防災ラジオには、100%の信頼性が要求されるため、本機には、同社が特許取得した、多数決一致(2out of 3)方式を採用し、雷サージなどの気象条件および、外来ノイズなどの要因を排除している。もう一つの特長は、3つのチューナーを搭載し、災害状況に応じて県域FM放送局と、コミュニティ放送局の双方から起動信号を受信できること。これにより、コミュニティFM局の出力だけでは電波受信が困難だった地域にも、県域FM局の電波に乗せて情報を送

り届けることができる。放送を継続することができる。さらにチューナーが複数あることで、いずれかの情報発信局が被災し、放送困難な状況に陥っても、M・AMラジオとして使用することができるが、

自然災害発生時は、県域FM局やコミュニティFM局からの緊急放送が割り込み、ラジオが自動起動する。